

意見交換会開催結果概要

- 1 開催日時 平成28年11月22日（火）
- 2 時 間 開会 午後7時～ 閉会 午後8時37分
- 3 場 所 玉川こども図書館 2階交流ホール
- 4 参加人数 22名
- 5 出席議員 福田太郎議長、高岩勝人副議長、
麦田徹建設企業常任委員長、
上田雅大建設企業常任副委員長、
角野恵美子建設企業常任委員、安達 前建設企業常任委員、
横越 徹建設企業常任委員、高村佳伸建設企業常任委員、
高 誠総務常任委員長、
長坂星児経済環境常任委員長、
源野和清市民福祉常任委員長、
喜多浩一文教消防常任委員長、
清水邦彦議会運営委員長
（オブザーバー議員）
小間井大祐議員、坂本泰広議員、松井 隆議員、
中川俊一議員、熊野盛夫議員、大桑初枝議員、
前 誠一議員、下沢広伸議員、野本正人議員、
久保洋子議員、山本由起子議員、森 一敏議員、
宮崎雅人議員、森尾嘉昭議員、玉野 道議員、
中西利雄議員
- 6 次 第 別紙のとおり
- 7 結果概要 以下のとおり

上田雅大建設企業常任副委員長の進行のもと、福田太郎議長の開会挨拶に引き続き、出席議員の紹介を行った。次に、上田雅大建設企業常任副委員長から平成28年度金沢市議会9月定例会議会報告を行った。麦田徹建設企業常任委員長に進行をかわり、角野恵美子建設企業常任委員から意見交換会テーマ報告として「金沢らしい都心軸の形成を目指して」の報告を行った後、テーマに関して有識者及び関係団体と意見交換を行い、次に市民とテーマに関する意見交換を行った。上田雅大建設企業常任副委員長の進行に戻り、高岩勝人副議長の閉会挨拶で閉会した。

1. 開 会

【上田雅大建設企業常任副委員長】

皆さん、こんばんは。

本日は日中のお仕事でお疲れのところ、本当にたくさんの方にお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

では、定刻となりましたので、ただいまより金沢市議会意見交換会を開催させていただきます。

本日の司会進行を務めます建設企業常任委員会副委員長の上田です。どうぞよろしくお願いいたします。

着座にて進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、スライドの次第の流れに沿いまして進行させていただきます。また、受付で配付いたしました資料にも本日の次第がございますので御参考ください。

まず、開会に当たりまして、金沢市議会福田太郎議長より御挨拶を申し上げます。

【福田太郎議長】

皆さん、こんばんは。本日は金沢市議会の意見交換会にお集まりいただき、まことにありがとうございます。

この意見交換会でありますけれども、平成26年度より議会改革の一環として開かれた議会を目指すということで5つの常任委員会がそれぞれ実施しているものでありまして、今回は建設企業常任委員会の主宰となります。

さて、本日の意見交換のテーマは、金沢らしい都心軸の形成についてであります。古くからの金沢市の都心軸と呼ばれる片町や武蔵地区では、現在、ビルの老朽化が進んでおりまして、耐震化などの多くの問題を抱えております。一方で、金沢市では人口減少、超高齢化社会に対応するための集約都市形成計画を策定中であり、その中には中心市街地や都心軸への都市機能の集積強化を行うことなどが挙げられております。そのような中で、老朽ビルの更新や機能の集積をどのように行い、新しい都心軸を形成していくかはこれからの金沢のまちづくりにとって重要なこととなると思っております。

きょうは、専門家の先生方、そして関係団体の方にお越しをいただきました。忌憚のない御意見をこちらにいただきまして、これからお聞きした意見をまた議会のほうに反映をしてみたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、きょうはよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。(拍手)

【上田雅大建設企業常任副委員長】

福田議長、ありがとうございます。

2. 出席者の紹介

【上田雅大建設企業常任副委員長】

ここで、今回出席しております議員を紹介いたします。

まず、今ほどご挨拶をいただきました福田太郎議長でございます。

【福田太郎議長】

改めまして、こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

高岩勝人副議長でございます。

【高岩勝人副議長】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

次に、今回の意見交換会を担当している建設企業常任委員会の委員を紹介いたします。

麦田徹委員長です。

【麦田徹建設企業常任委員長】

こんばんは。きょうはよろしくお願ひします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

安達前委員です。

【安達前建設企業常任委員】

よろしくお願ひいたします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

高村佳伸委員です。

【高村佳伸建設企業常任委員】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

横越徹委員です。

【横越徹建設企業常任委員】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

角野恵美子委員です。

【角野恵美子建設企業常任委員】

よろしく願いいたします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

そして、今ほど紹介いたしました高岩勝人副議長も建設企業常任委員会の委員ですので報告だけさせていただきます。

また、建設企業常任委員会のほか、4つの常任委員会と議会運営をつかさどる議会運営委員会の各委員会の委員長も出席しておりますので、御紹介させていただきます。

総務常任委員長であります高誠議員です。

【高誠総務常任委員長】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

経済環境常任委員長であります長坂星児議員です。

【長坂星児経済環境常任委員長】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

市民福祉常任委員長であります源野和清議員です。

【源野和清経済環境常任委員長】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

文教消防常任委員長であります喜多浩一議員です。

【喜多浩一文教消防常任委員長】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

議会運営委員長であります清水邦彦議員です。

【清水邦彦議会運営委員長】

こんばんは。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

また、今ほど御紹介いたしました建設企業常任委員会の委員及び各委員会の委員長以外の市議会議員につきましては、オブザーバーとして参加しておりますことを御報告させていただきます。

次に、本日の意見交換会のために有識者及び関係団体から6名の方に御参加をいただいておりますので、御紹介させていただきます。一番奥のほうから紹介いたします。

金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師で、景観・都市デザインが御専門の

小林史彦様です。

【小林史彦金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師】

小林と申します。よろしくお願ひいたします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

金沢星稜大学経済学部准教授で、国土計画・観光まちづくりが御専門の佐野浩祥様です。

【佐野浩祥金沢星稜大学経済学部准教授】

皆さん、こんばんは。佐野と申します。よろしくお願ひします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

同じく金沢星稜大学経済学部教授で、社会保障・社会福祉政策が御専門の曾我千春様です。

【曾我千春金沢星稜大学経済学部教授】

曾我と申します。よろしくお願ひします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

松下建築構造設計代表で、建物の耐震が御専門の松下正様です。

【松下正松下建築構造設計代表】

松下です。よろしくお願ひします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

関係団体といたしまして、近江町市場商店街振興組合理事長、吉村一様です。

【吉村一近江町市場商店街振興組合理事長】

吉村です。よろしくお願ひします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

そして最後に、片町商店街振興組合副理事長、小間井隆幸様です。

【小間井隆幸片町商店街振興組合副理事長】

片町商店街の小間井と申します。よろしくお願ひします。

【上田雅大建設企業常任副委員長】

以上6名の方に御参加いただきまして始めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

次に、本日の意見交換会について簡単に説明をいたします。

この意見交換は金沢市議会が主宰するものであり、金沢市が行っている、あるいはこれから行う事業への説明や解説を求める場ではないことをあらかじめ御承知ください。

きょうは、金沢市議会議員と御参加されている識者や関係団体の方々、市民の皆様との意見交換を通じ、金沢市へ要望や意見を届けようとするものです。この会は平成26年度から実施しているもので、テーマを設けて実施しており、今回は「金沢らしい都心軸の形成を目指して」をテーマに意見交換を行います。

まず、議会からの報告といたしまして、9月に行いました定例月議会の概要に

ついて10分程度お時間をいただきまして説明をさせていただきます。その後に、本日のテーマであります「金沢らしい都心軸の形成を目指して」に関する意見交換に入ります。テーマについて15分程度説明し、本日お越しいただきました有識者や商店街振興組合の方から御意見をいただき、それも踏まえた意見交換を皆様と行いたいと考えております。

3. 議会からの報告

・平成28年度金沢市議会 9月定例会議会報告

【上田雅大建設企業常任副委員長】

それでは、平成28年度金沢市議会 9月定例会議会につきまして御報告をいたします。

[上田雅大建設企業常任副委員長が平成28年度金沢市議会 9月定例会議会報告について別紙のとおり説明]

4. テーマに関する意見交換

・テーマ（金沢らしい都心軸の形成を目指して）についての説明

【上田雅大建設企業常任副委員長】

続きまして、本日のテーマに移ります。ここからの進行は麦田委員長が行います。お願いします。

【麦田徹建設企業常任委員長】

テーマに関する意見交換の進行を務めさせていただきます委員長の麦田でございます。

今から説明する資料は、きょうの意見交換会を開催するに当たりまして、皆さんと意識や情報の共有を図ることを目的に、現在、議会として把握している情報をもとに作成しました。スライドの資料は、現在、金沢市が策定しています集約都市形成計画の概要や、これまで金沢市が行ってきている市街地開発や耐震化への取り組みなどの事業についての紹介であります。また、スライドの資料はお手元に配付してありますので、見づらい場合はお手元の資料を見ながらお聞きください。

説明は、建設企業常任委員会の角野恵美子委員が行います。

[角野恵美子建設企業常任委員が意見交換会テーマ報告について別紙に基づき説明]

・テーマに対する有識者及び関係団体からの意見発表

【麦田徹建設企業常任委員長】

ありがとうございました。

ちょっと長くなって申しわけありません。都心軸ということなんですが、なかなかいろんな問題があることから、現在、市の取り組み、これまでの取り組みということをお話しした上で、またこの後の皆さんの御意見の参考にしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、今のスライドに関連するかどうかかわからないですが、まず有識者の御意見ということでお話を伺いたいと思います。

大変短い時間になるかと思いますが、5分程度でお聞かせいただきたく思っておりますので、まずは金沢大学理工研究域環境デザイン学類、御専門が都市デザインと景観とお聞きしておりますので、そういった観点からの金沢のまちをどうつくっていけばよいかというアドバイスがいただけたらと思います。

小林様、よろしくをお願いします。

【小林史彦金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師】

改めて、皆さん、こんばんは。御紹介にあずかりました小林と申します。座って発表させていただきます。

私は都市景観、都市デザインが専門なんですが、金沢市は皆さん御承知のとおり都市景観行政という意味では全国的に見てもトップランナーだと思います。ですので、いわゆる金沢らしい、美しい、風格のある景観をつくっていくということについては、現状でもかなりのレベルにあると思います。

ですので、きょうは集約都市形成計画は一つのお話のきっかけということもありますので、その中で一つ、中心的な価値になっているというふうに思われます都心軸のにぎわいづくりということ、その観点からお話をしたいなと思っています。にぎわいのある人間中心のまちへというようなテーマで、その中で景観、都市デザインということがどういうことができるかということをお話ししてみたいと思います。

にぎわいづくりというのを考えたときに、まちに人の目に見える活動があるということが非常に大事だと思います。建物の中で何か飲み食いしているとか、人が活動している。それはなかなか外から見えません。ですので、やはり大事なのは、公共的な空間の領域で、いかに人々の活動が見えるかということだと思います。こういう活動のことをパブリックライフというふうに言ってもいいのかなと思います。人が人を呼び、活動が活動を呼ぶ。1足す1が2ではなく3になって、雪だるま式に膨らんでいくということがありますので、そういう視点からどういう景観形成をしていけばいいのかというような話になるかと思います。

今、金沢市さんのほうで策定されている集約都市形成計画、これは全国的に見ても非常に先進的な内容だというふうに伺っております。私は、直接的にかかわっていないんですけども、これはいわばにぎわいが生まれるための必要条件を整える計画だろうなと思います。まちに人が集まってくる施設がある。ただ、そ

れだけでは要するに人の目に見える形のパブリックライフというのは必ずしも生まれるとは限らないと思うんですね。集約都市形成計画というのがいわば大きな計画だとすれば、にぎわいづくりのためのルールというのは小さな計画といえますか、きめ細かいルールづくりというのが恐らくこれから建築の更新が進んでいくに当たって重要なことになるんだろうと思います。そういったことについてお話をしたいと思います。

前置きでもう半分過ぎてしまったんですが、どうでしょう、困りました。次、行きます。

そのためのステップ1として、歩いて楽しいまちにするということが当たり前なんですけど大事だと思います。そのときに、空間づくり、景観づくりにおいて目の高さのまちを楽しくすることが大事だと思っています。人間の視覚特性というのは下向きなんです。大体10度ぐらい下を向いていて、上のほうはあんまり見えなくて足元はよく見えている。なので、まちを楽しく、歩いて楽しくとするときには、やはり低層部のデザイン、それから用途が非常に大事になります。そういったところについてのルールづくりというのは大事になるかと思っています。建築と歩道、道路との間の境界部分、それをやわらかく、エッジをやわらかくしていく。透明性を高くしていく。そういったことが大事になるんだろうと思います。

人間、歩くということをベースに考える必要があると思いますので、防災とかいろんなことを考えたら、建物を強度化したりすることも必要だと思うんですけども、再開発ビルってえてして歩いていてずっと間口いっぱい同じようなウインドーが続いて非常に退屈だったりするわけですね。なので、時速4キロで歩いたときにリズムが生まれるような間口をつくっていくということが大事かなと思います。大体5秒ぐらいごとに変わっていくとすごく楽しい部分が生まれるんだと思いますね。5秒ぐらいというのは恐らく6メートルぐらい進むのかな。これというのは実は金沢の町家の平均間口は大体3間ぐらいなので、大体それぐらいになるということで、金沢の裏通りのリズム感にも合ってくる。そういう形が大事かなと思います。

それからあと一つ、用途も大事だと思うんです。何となく南町あたりをイメージして話していることになっちゃうんですが、あの辺はやはりオフィスとか銀行が多くて、きょう、うちの学生に聞いてもほとんど行かない。イメージ聞いても全然ないと思うんですね。あそこはやはりオフィスや銀行よりも飲食店とか物販店とか人が歩いて楽しくなる、歩みが少しゆっくりになるようなそういった用途をできたら低層階に誘導していけたらいいんじゃないかというふうに思います。

少し勉強したんですけど、デンマークなんかでは銀行とオフィスを都心部でできるだけ制限するような仕組みをつくっているまちも多いそうです。そういうところでは、間口5メートル以下でないとそういうものが立地できない、そんなル

ールがあったりするそうです。

それからもう一つ、歩いて楽しいという意味では、もう時間がオーバーしましたが、シークエンスを楽しめるまちにということも大事だと思います。次々と景観が展開していくということも大事だと思います。さっきの間口、5秒置きにとかじゃなくてももう少し長くていいと思うんです。1分置きに少し何か変化がある。狭い視界がぱっと開けるとかそういうのが大事だと思うんです。

金沢は城下町の構造を考えたときに、都心軸と直交する側に見るとお城のほうが高く、そこから内惣構があって、内側に人がびっしり住んでいる高密なまちがあって、その都心軸があって、そこから坂を下がって行って外惣構があってというそういう構造があります。横に見るとすごく特徴的な景観が展開していくんですね。近江町のほうから見たら、まず近江町市場に入っていく親密な通りがあり、尾崎神社があり、尾山神社の参道があり、玉泉院丸の石垣が見え、広坂では兼六園、それから広坂通りの街路樹の緑が見えて、ちょっと行くと坂をおりると柿木畠のすごいわい雑なといいますか親密な雰囲気があり、堅町のすかつとした通りもあり、非常に変化がある。反対を見ても、夕景が夕方きれいなそんな景観がある。それをやはり生かすようなデザインといいますか、それが大事かなと思います。建築もそうですし、街路空間もそうだと思います。

そういうところを磨いていくと、都心軸の話でやはりにぎわいづくりという意味では裏通りとの関係はすごく大事だと思うんですね。裏通りにすてきなお店もありますし、そういうところへの回遊を促すということもできるのかなと思います。

ステップ2として……。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

まだ続きますか。

【小林史彦金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師】

少々。じゃ、短く。

ステップ2は滞留時間を長くするということが大事だと思います。人々がたまれるような用途ですとか、建物を少し下がってもらって、そこに壁ができるとか、そういうことが大事だと思います。そういうことを実現するためのルールづくりですね。まちづくり協定、計画だとか、デザインガイドラインだとか、そういうルールを、話し合いを長い間かけてした上で、その上で実際の更新、建築の更新に入る。それが大事かなと思います。

まだ、いろいろあるんですけども、このぐらいにしておきます。済みません。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

後でまた伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、続くんですけども、佐野先生は国土計画とか観光まちづくりということが御専門だということなので、そういった観点からの思いを少し、なるべ

く短くお願いします。

【佐野浩祥金沢星稜大学経済学部准教授】

改めまして、皆さん、こんばんは。佐野と申します。

都市計画と観光を専門にしております。その観点から、できるだけ5分以内でお話ししたいと思います。私からは、金沢らしいまちなみとは何かと、金沢らしい交通とは何か、この2点について少しお話しさせていただきたいと思います。

金沢らしいまち並みについてなんですけれども、金沢工大の水野先生が金沢のことをバームクーヘン都市というふうに形容しているんですけれども、これはやはり先ほど話のあった金沢市がずっと進めてきた開発と保全の調和、この姿勢のもとで育まれてきたものだと思っておりまして、私はこれがまさに金沢らしさだと考えております。

一方で、都心軸については近代化が進められてきたという中で、これからのことを考えたときに、都心軸、これからも何度も更新されていくんでしょうけれども、以前のようにばんばん再開発をしていくというのはなかなか難しいと思っているんです。少しずつ小さなスケールで更新していくということも大事かなと思っています。

さらに言うと、近代的なビルの建ち並ぶような都市的景観という時代ではなくて、もっと個性を前面に打ち出した、それぞれの建物が個性を打ち出したようなその都市らしいまち並みというのが求められているのかなと。観光という観点からは。

そんなふうに考えておりまして、もちろん再開発という手法も当然有効なんですけれども、もう一つの視点として今あるストックをいかに有効利用するかという発想が大事だと思っています。例えば片町商店街、確かに老朽化、耐震化という問題はあるんですけれども、一方で昭和を象徴する遺産としても私は捉えられたいと思っています。あれは全国で防火建築帯とか防災建築街区とかそういった都市計画の事業でつくられた共同ビルなんですけれども、なかなかこういうものって全国ではもう残ってないんです。なので、生きた、今でも現役の片町商店街の共同ビルというものを遺産として捉え直すということも一つの発想としてはあるのかなと思っています。

都心軸沿いの建築は全て同じ高さで、全て最新である必要はないと思いますし、それは現実的ではないし、そういったまちはもう中国とかで実現されているんですよ。重要なのはバームクーヘンという言葉が示す多様性、都心軸が多様な建築、多様なお店に埋め尽くされることであって、その結果、魅力を感じるお客さんがふえ、まちが活性化する好循環が生まれるということだと思っています。

もう一つ手身近に、金沢らしい交通ということなんですけれども、私はLRTを実現させるべきだと考えております。都心軸のお店にとっての脅威は郊外ショッピングセンターにほかならないと考えておりまして、それといかに差別化して、そ

こにない魅力を高めるかということが大事だと思っています。

金沢は戦災に遭わず、江戸時代の都市交通を大きく継承しておりまして、江戸時代の都市交通というのは基本的には歩行、歩く人ですよ。歩行者中心の都市交通がもう既にでき上がっているわけですね。ほかの全国の都市では一度車中心の都市をつくって、今、再び歩行者中心のまちにつくり変えようとしているんですけども、この状況を鑑みると金沢の優位性というのは明らかですね。歩行者中心の都市をつくることは金沢にとって必然だと思いますし、限られた道路空間を有効利用するためにはやはりLRTが必要だと思っています。

社会実験なんかを繰り返して、少しずつ市民の皆さんの意識を醸成していくことが大事だと思っています。

以上2点、お話しさせていただきました。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

済みません。時間のお気遣いいただきまして、ありがとうございます。

僕も実はこのテーマの発端になったのが、水野教授が金沢市内の一番画一された並び、昭和40年代につくられたビルが並んでいるという今の状況が金沢の中で一番おもしろくないというふうに言っていたことが気になっていてきょうのテーマを選んだということがありまして、その辺も絡めてまた後ほどお聞きしたいと思います。

では、社会保障とか社会福祉政策が御専門ということで、また女性という目線も含めて、曾我先生、ぜひよろしくお願いします。

【曾我千春金沢星稜大学経済学部教授】

曾我でございます。よろしく申し上げます。

私のほうはちょっと先生方にお任せするというので簡単に話をさせていただきたいということと、ちょっとお願いをこの機会にさせていただければなというふうに思っています。

まず1点、先ほどから出ています集約都市形成計画の中で非常に懸念されるのは、適切な場所への誘導というようなことで今回提示がされておられますけれども、やはり最後の一人の方が住み続けることを妨げるような誘導になることがちょっと怖いなというふうに思っていますので、まだまだ先の話かと思うのですが、その点を考慮して誘導ということを進めていただければなというふうに思っています。

それからもう1点は、この計画を立てる際に非常に行政の中での縦割りの弊害なども少しうかがえるので、その点は連携しながら集約都市形成計画をおつくりいただければありがたいなというふうに思っています。

そこで、本題に入りますけれども、今回のこういったような集約都市につきましては、やはりまちなかにいわゆるサービス付き高齢者向け住宅というものは、これは本当計画の中には多分入ってくるかと思っておりますけれども、非常にいろんな

ところで都市部のほうにサ高住を建てようというようなことは言われていますが、しかしながら、やはり介護保険法上の施設である特別養護老人ホームの建設というのは、これやはり重要になってくるのではないかなというふうに思っています。まちなかに特別養護老人ホームをつくることによって、片町だとか香林坊なんかについては非常にバスの便がいいですから、そこで家族などが訪ねてこれることができるのではないかなというふうに思っています。全国各地で介護殺人や何かが起こっているわけなんですけれども、これはやはり家族で介護をすることは無理だということが顕在化しているような状態なので、できれば金沢からまずは都心部に特別養護老人ホームをつくって、交通の便のいいところにつくって家族に来ていただけるということをまず最初に先駆的にやられるということも重要かなというふうに思っています。

簡単ではございますが、以上で私のほうからは終わります。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございました。

サ高住をまちなかにという感覚は少し、今現在では遠いのかなという思いがあるんですが……。

【曾我千春金沢星稜大学経済学部教授】

特養です。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

特養ですね。その辺もまた後ほど少し踏み込んでお聞きしたいと思います。

次の方の松下設計の代表、松下様なんですが、もちろん耐震のことが設計の側からして、今まではまちづくりという観点が多かったかと思うんですが、設計のほうの目からして耐震をどうやっていくかということのお話を聞きたいと思うんですが、よろしくお願いします。

【松下忠松下建築構造設計代表】

はじめまして、松下です。ちょっと声がかがらで申しわけございません。ちょっと聞き取りにくいかもしれませんが、手身近にお話しさせていただきます。

きょうの朝も福島県の沖合で地震がありました。平成7年から兵庫県の南部地震、それから平成23年に東北地方太平洋沖地震がありました。ことしになりました熊本地震が起きました。地震学者に言わせれば日本列島は地震の活動領域に入ったということを言われております。ただし、石川県では能登沖地震しか最近では起きてませんで、きょうの地震でも少し震度1か震度2ぐらい。少し揺れれば、皆さん、耐震化について危機感を覚えるんじゃないかなと思うんですが、なかなか石川県では起きてない。じゃ、どうなのかということは、熊本地震でも断層はありましたけれども、地震の確率はすごく低かったということがございました。石川県には森本・富樫断層があります。国土地理院では、それが鶴来まで延びているということも発表されております。昔は確率を出されていましたが、確率は

出さずに最近では危険度が高いということで言われております。なので、いつ起こってもおかしくない状況であります。

熊本地震でもRCの建築物が倒壊、崩壊しております。約10件ぐらい倒壊しております。これは全て旧耐震のものであります。今の新基準で満たすものであれば倒壊、崩壊に至っておりません。なので、ぜひとも耐震化をすることに関して危機感を持って進めていただきたいと。

特に民間がやはり経済的、それから耐震補強した場合の使用に対してのふぐあいが出て、なかなか先に進まないんじゃないかなと思います。ただ、耐震補強することによって、例えば新築にするよりも費用は安いし、その被害を最小限にとどめるのに有効であります。

熊本地震ではやはり耐震化が進んでなかったことによって災害拠点の機能が喪失したり、避難が長期化したり、それから災害の産業廃棄物が大量に発生しております。それらの連鎖が起きて莫大な費用がかかっているということでございます。

なので、一刻も早く、1棟ずつ耐震化を進めて安全・安心なまちづくりにしていただきたいというふうに思っております。

以上です。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

耐震のことが出たので、本当はもうちょっと先ほどの佐野先生の中でもう一回つくりたい、今あるものをといるところとは多分合わない部分が出てくるかと思うんですが、そのこともまた後ほどお聞きしたいと思うんですが、今、耐震という意味できょうお越しいただいている、実際にそこにおいて、地主さんという言い方は変ですけども、その観点からの意見というのを少しお聞きしたくて、きょうお越しいただいています近江町市場商店街振興組合の吉村様、お願いします。

【吉村一近江町市場商店街振興組合理事長】

たしか地鎮祭のときに能登の地震が起きたんですよ。いちば館の地鎮祭のときに、たしか能登地震が起きたなという記憶があるんです。

平成22年に近江町いちば館が完成し、平成26年にはかなざわはこまちの完成により、武蔵の四つ葉のクローバーというか交差点の四つ角がクローバー状に形成されました。また、金沢駅通り線の再開発事業も平成25年に完成し、そして片町きららもことし正式にオープンをして、ようやく金沢駅から武蔵、そして片町へと続く都心軸の形成がなされました。このことは、駅前からも片町からも中間地点である当商店街も地区間交流の促進につながると大いに期待をしておるところでございます。

当商店街は、新たな利便施設として老朽化した施設の更新として複合商業施設の建設事業を推進してまいります。建物の主な用途は、駐車場、倉庫、店舗、事

務所、新たに食育施設等を計画しております。近江町の新たなにぎわい施設として整備をしてまいるつもりでございます。実施計画は、平成28年、29年に実施設計、30年、31年にかけて取り壊し、建設と、32年にはオープンを予定しております。

また、今の現状でございますが、新幹線開業以来、多くの観光客に来ていただいております。現在も続いております。昨年の10月には金曜日には前々年度から比べると1.5万人の人が2万1,000人、土曜日、日曜は2万人から3万人という勢いでふえております。あと現状は、これだけ大勢のお客さんが来ていただくとは予想もしていなかったんですが、売上げのほうは全体としては伸びております。業種によって明暗が分かれておりますが、一部の店舗では人が多くてゆっくり買い物できないということで常連客が来なくなったという店舗も出てきております。特に八百屋さん、花屋さん、肉屋さんなどがそういうような意見を申しております。

今後の課題ですが、近江町市場は市民の台所というスタンスはこれまでも、これからも変えることはありませんが、有名になったことで市民の台所と観光市場の2つの顔をどう両立させていくか、それが課題でございます。特に市場へ足を運ばなくなった常連客をどうするか、またもとに戻っていただけるかというようなことが今後の課題になっております。

以上でございます。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございました。

また後ほど、もう少しお聞きしたいと思います。先ほど松下さんからありました耐震というジャンルではどうしても先ほどのスライドにもありましたけど、行政側ができることではなくて、やはりオーナーさんが何かの決断をしなければできないということと、どんなふうにやっていけばいいかというのは僕らがやっても届かないところだということもありますので、また後ほどお聞かせください。

それでは、もう一方の片町商店街振興組合の副理事長の小間井様。実はきょうも片町商店街のほうでは何か説明会がされているということであり、無理を言って来ていただきましてありがとうございます。

その辺についてもぜひ今の現状、それからやっぱりオーナーとしてのところをお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【小間井隆幸片町商店街振興組合副理事長】

時間が余りないので、しゃべり出したら1時間でも2時間でもしゃべるので要点だけ申し上げますと、先ほど佐野先生が昭和のレトロな部分を残しながらという、都心軸は何かということを見ると、先ほど言った防災上の道路ですとかその確保も実はもちろん大事でありますから、これは今、日本全体が抱えている地方の大問題で、地方の中心市街地というものをどうやって再生していくのかとい

う、これは本当に大変な問題だと思うんです。それは決して金沢市も例外じゃないし、今、都心軸と言われている駅から武蔵、片町も例外ではございません。

そんな中で片町商店街というのは先ほどどなたか言いましたけれども昭和32年から51年までの近代化で今の構造体の連動したビルになりました。ところが残念ながら、これは余り新聞には出ておりませんが、現実には古いビルの壁が崩落して落ちています。これはニュースになってないだけで、あれは片町商店街がアーケードを設置しているおかげで人に迷惑というか危害というかけがを負わせていないだけで、実ははね返ってタクシーに当たって、タクシー会社から損害賠償請求されることも実はあります。

そういう現状だということ踏まえて、じゃ、この老朽化したビルをどう更新していくのかということですが、今の経済情勢では個々の地権者がそれを独自にやっていくということは大変厳しい状況だと思います。しかも、実は片町商店街は今、きららができましたけれども、あれができて片町商店街全体のビルのうち、昭和56年以前の、旧耐震のビルがまだ6割あるんです。きららができるまでは7割強だったんですが、ようやく3万平米が1万5,000平米に減りましたけれども、新しくなってようやく、それでも6割が旧耐震ビルです。これをそのまま放っておいて金沢が本当に中心街として都心軸の機能を果たせるのかというのは、僕は違うと思うんですね。

ですから、やっぱりこれは更新をしていかなきゃいけない。どうしても。だけれども難しい問題があって、実は更新すればいいというものではないんです。にぎわいを同時につくっていかねばいけないという、この2つの大きな課題をどういうふうに完成させるのかという一つのヒントは実は今回のきららの中にありまして、きららは今も言いましたように従前の建物が面積で3万平米、今新しくなったスペースが1万5,000平米ですから半分になりました。

考えてみてください。駅前のヴィサージュ、リファール、とにかくあの辺の旧の木造だったものをあれだけの容積率にして事業化できるというのは、それは当然上の部分を事業を完成させるために協力してくれる企業が持ち床という再開発でいう上の部分を買ってくれるから事業が完成できるわけです。じゃ、今の経済情勢で片町、片町が今再開発をするときに交渉をしたときに全国の大手ディベロッパーに言われたのは人口46万じゃ無理ですね。もうこれから事業化するための再開発、積み上げて持ち床を取得して協力するなんていうことはできませんとはっきり言われました。今、現状で日本はそういう状況なんです。

ですから、これから再開発、片町は今、A地区と言われて、BだCだと言われてますけれども、これをやっていくのに同じ手法ではできないんです。今、全国からきららに視察が来ているのは、従前の容積率の半分になって何で再開発事業が完成できたんだというそこに皆さんが興味を持って視察に来られています。

ですから、これから都心軸を再生する意味で、個性のあるということではその

とおりにんですが、そんなに高層階のものを求めるのではなくて、身の丈に合った大きさで、できれば先ほどから言っているように1階もしくは2階までが商業で、3階ぐらいは病院とか全部外に行っちゃいましたから、これからかかりつけ医という時代も来るでしょうから、まちの中にそういう医療、診ていただける町医者や3階ぐらいに置いて、そこから上は賃貸のアパートでもいいからやる。商業施設をどんと入れてにぎわいをつくるんやというやり方はもう通用しなくなったということは間違いないと思います。

ですから、当然事業スキームとして成り立つための知恵は絞らなきゃいけないわけで、単に行政施設を上に乗っけて大事な税金を垂れ流して使い込むという手法じゃなくて、何かそこに知恵を見出してこれからの再開発をしていく、そういうことが必要だと思っています。

交通の問題とかほかにもいろいろあるでしょうけれども、にぎわいと安全をどう同時につくっていくか。これはやっぱり今後金沢モデルとしてこの都心軸の再生のキーになるのかなと私は思っています。

そんな意味で、これからも皆さんと協力してシビックプライドと言われている今の、おらがまちを誇りに思えるようなそんな政策を前に進めていただければなというふうに期待をしております。

以上です。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

地権者の生の声というのは一番聞きたかったところかなというふうに思っていて、机の上の計算じゃない部分を聞かせていただきまして、ありがとうございます。

・有識者及び関係団体とのテーマに関する意見交換

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

今のお話にも出てきましたが、先ほどからある今あるものを利用するという点で矛盾する点があるかと思うんですけども、佐野先生、いかがでしょうか。

【佐野浩祥金沢星稜大学経済学部准教授】

今のストックを利用するというをお話ししたんですけども、松下さんのおっしゃるとおり、やっぱり一番優先すべきは、安心・安全です。これは間違いないと思います。

今の小間井さんの現実に片町商店街の壁が落ちているという話なんかを踏まえると、やっぱり更新していかなくちゃいけないというのは当然あるとは思いますが、私が言いたかったのは考え方としてそれだけじゃないんじゃないかということや、別になんか全部が全部ストックを生かせというわけじゃなくて、そういう発想も大事なんじゃないか。もうちょっと都心軸全体とし

て多様性というものを考える上でそういう考え方もありなんじゃないかということで、あくまでももう少し幅広い発想で考えるべきだということのお話をしたつもりです。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

あと、今の小間井さんのところからも出てきましたにぎわいという面では先ほど小林先生、ちょっと時間が足りなかったかなというところがありますので、少し補足があれば。

【小林史彦金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師】

基本的には早足でしゃべったつもりなんですけど、にぎわいとも関連して、今ちょうど議論になっていたストックをどう生かすかところも結構大事なことかなと思います。

ちょっとよくわからないんですが、結構、耐震改修の助成の仕組みというのは、それなりに充実している。3分の2補助で上限1億円、それで持ち出しはもちろんあるわけですがけれども、建てかえは無理でも今のスケールのまま、少ない投資で更新をしていくということもありなのかなと思うんですね。そうすることで、よくわかりませんがテナント料というか賃料もある程度抑えるような形で、そのつくりかえるというタイミングで先ほど申し上げたようなアクティビティーが生まれるインフラとして整えていく。そういうことをセットでやっていくということが積み重なっていくことは結構意味があるのかなと思うんですね。

お金をかけたところにはどうしても大きな資本しか入れなくなりますけど、小さな投資で改修していったところというのにはスモールビジネスとかローカルなビジネスとか、すごくクリエイティブなビジネスであったり、イノベーティブなビジネスであったり、そういうものが入ってくる可能性があって、その人たちが入ってきてそこで生態系をつくることで新しい活力というか新しい産業が生まれる可能性もあるし、何かそういう可能性を昭和の建物にはすごく感じるんですね。

広坂のあたり、ちょうど今、21世紀美術館ができたこともあって、古いビルにたくさんそういうクリエイティブな人たちが集まってきていて、ビルの1階から上まで、エレベーターもないのに全部家具屋さんになっているとか新たに出てきていますよね。ああいう形というのも、耐震補強しないといけないと思うんですけど、おもしろいのかなと。無責任ですけど、そう思ったりします。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

病院を入れるという御意見もありましたので、曾我先生、先ほどの特養を含めてそういう組み合わせというのが可能なかということもあれば。

【曾我千春金沢星稜大学経済学部教授】

どうもありがとうございます。

私は可能であるなというふうに思います。先ほど話されていたように、建物の中の一部に診療所を入れるということですよ。なので、それはやはり国の政策とも合っていて、地域の中に小さな病院、いわゆる診療所をつくって、まずはその診療所に患者さんは行ってくださいねという方向性なので、それはそれで非常に有効策ではないかなというふうに思います。

もしできればということプラスして、まず医療機関ができた。じゃ、その横に高齢者の施設を建てるということももう一つ考えれるんじゃないかなというふうに思っています。先ほど言われたように非常に難しいというようなこともあって、国の介護保険の計画もありますし、金沢市の介護保険事業計画もありますので、その辺ともすり合わせは非常に必要かなというふうには思います。

以上です。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

吉村さんのところで今は近江町いちば館というので、その後、今、駐車場を含めて再開発という形になるんですが、どこかで先ほど小間井副理事長が言っていたようなところとリンクするところはあるかと思うんですけども、いわゆる地権者側の思いとしてそこへ踏み込むまでのところってありましたら。

【吉村一近江町市場商店街振興組合理事長】

いちば館は建物が構造上物すごく市場とマッチしていると思うんですよ。どこまでがビルディングでどこまでが市場かというようなところを、観光客が入っても余り区別がつかない。ビルディングと市場との区別がつかないというのは、すごくあのビルの建てた時点で、私どもは本当にいい建物が建ったなと思っております。

それと、まだ開発なされてない部分、それこそうちの店舗でも昭和の最初ぐらいに建ったような建物がずらずらと軒を並べているという区域もあるんです。それで、5年ぐらい前かな、そういうような開発の話も出たんですけど、やっぱり一部のいろんな利害の関係でその話はぼしゃったんですけども、でき得ればやっぱり今の耐震とかそういう問題ではやっぱりいろいろな問題があるんだろうなという認識はしております。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

その耐震という部分で、何とか進めたいというのは多分地権者の皆さんはそう思っているんでしょうが、なかなかそこへ入っていけないという部分、もし耐震側の御意見として何かあれば。

【松下忠松下建築構造設計代表】

そうですね、今の市のほうの補助金で実際やられているのはたった4棟しかないんですよ。それもある程度規模のでかい建物です。それができるのは、多分診

断すると耐力がないと。その耐力の判定というのは、実際今までの地震被害を統計的にとって、この数値以下だとみんな倒壊していますよ、崩壊していますよという結果に基づいた数値なんです。なので、それをやっぱり下回っていると倒壊、崩壊の危険性が高いということになるので、それを今、昭和56年以前の建物をやりますと、明らかにやっぱりその数値に達してない。

じゃ、次、補強するとなると、耐震壁を入れたりしなきゃいけない。それも何か所かにやるわけですが、その場所をどこに入れるかという問題が出てくる。規模がでかいと階段室とかちょっとばらけて入れることができるんだけど、店舗とかやっているのと、いながらの補強というのは非常に難しくなる。いながらの補強は難しくなるのと、その位置関係。いや、ここはうちの店だから嫌だと。ここは裏の通路で出入りするからそんなもんは入れれないということで、その補強の入る場所が難しいということと、いながらの補強が難しいということで、ちょっと二の足を踏んでいるのかなというふうに思います。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

実際に小間井さんはそういうところに、ずっと近くにおられると思うんですが、今、松下さんのおっしゃったようなのは現状と捉えてよろしいでしょうか。

【小間井隆幸片町商店街振興組合副理事長】

そうだと思います。片町スクランブルにある北国ビルディングというビルディング、あそこは今も北国銀行さんの関連会社さんがお持ちなんですけれども、いずれにしろ戸田建設さんが最上階におりまして、あそこがいたおかげで耐震工事をやりました。それは外から工事はやっているなってわかるけれども、通行に迷惑かけないでかなり長い期間でやられましたね。ああいうふうにやれば問題ないと思うんですが、通常、今商売している、あるいは忙しくなってほしいと思っている商店街の皆さんとかはお店を一定期間休んで補強するということはなかなか難しいんじゃないかなと思います。

ですから、再開発の手法というのも一つの方法ですから、そういうことを含めて考えていくということになるかなと思います。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

いちば館にしてもきららにしても極めてうまくいったパターンかなというふうには受け取るんですが、じゃ、この後どういうふうに行くかというのはやっぱり地権者の方の思いも必要だし、とはいえ耐震だけで進めていっていいかということ、やっぱりにぎわいとか含めると目に見える高さの部分とか、言われるところを考えると、いろんな面で問題があるのかなと思うんですが、委員のほうで質問ありますか。

【横越徹建設企業常任委員会委員】

日銀、あれ皆さん、どう思っていますか。

意外と私、支援者から言われるのは、私は金沢に生まれ、金沢に育っているんですけども、大和の前の日銀、あれは前から見てますから違和感はないけれども、最近では市民の方は何で日銀があそこに居座っているじゃないけれども、あそこをオープンカフェやら、ちょっと若者が来るまちにそぐってないんじゃないかと言われるんですけど、その辺、専門の方いますのでちょっとお聞きできればなと思います。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

にぎわいといった観点で、小林さん。

【小林史彦金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師】

なかなか難しい質問かなと思うんですけど、やはり風格ということも大事だろうと思うんですね。都心軸沿いの建物を見ますと、ちょっと昔のことを調べるとたくさんクラシックないい近代建築とかが、かつてはあったわけですね。ただ、それがほとんど建てかわってきて、この間、北國銀行の本店でしたかあれも壊されましたけど、あれもなかなかすてきな建物だったと思うんですね。

そんな中で、今数少ないクラシックな建物といえば三井住友銀行のビルと、あと日銀も多少新しいといえどもやはりいい建築だと思うんですね。そういうものがあるということはすごく大事なことで、やはり都市の格という意味で意味があるのかなと思います。

ただ、ゆとりがすごくあるので、あの前のところをもう少し何か使わせてもらえたらいいかなとも思ったりしますが、現状ではバス停に対して協力もなさっているわけですけど、恒常的には無理にしても、かつてたしか21世紀美術館ができたときに明後日朝顔のアートプロジェクトをやったとき、たしか日銀のところにもやったりしたと聞いているんですが、そういう何かイベント的に時々やらせていただくとか、そういうことはすごくあのエリアのイメージを高めていく上でおもしろいのかなと思いますし、あってもいいのかなというふうには思います。

建築としては大事かなと思います。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

佐野先生、何かありましたら。

【佐野浩祥金沢星稜大学経済学部准教授】

私もあそこに日銀があることで非常に、小林先生がおっしゃったように都市の格としても、香林坊の質というものが高まっているような気はしています。

やはり私も日銀の前のオープンスペースはもうちょっと使いようがあるかな。何かバス停とかよりはもうちょっと人がもうちょっとゆったりできるような仕掛けがあってもいいのかなとは思いますが、その程度です。

【高岩勝人建設企業常任委員会委員】

先ほど佐野先生、LRTのお話をされましたが、そこをちょっともう少し詳し

く教えていただけたらと思います。

【佐野浩祥金沢星稜大学経済学部准教授】

LRTの話をしたんですけれども、とにかく金沢というまちは結構僕はアメリカというよりはヨーロッパの小都市のような雰囲気を感じていまして、何か細い街路であったりきめ細かい街路であったり、豊かな水辺であったり、そういったヨーロッパの都市なんかを連想してしまうので、どうしてもヨーロッパのほうで進んでいるLRTというものを連想してしまうんですけれども、やはり大事なことは市民の人たちが車を使わなくてもまちを楽しめるんだという意識を育てることが大事だと思っていて、それと同時並行でLRTというものも考えていいのかなと。当然、都心軸沿い、都心軸の道路、車線を潰したりいろんな弊害はあると思うんですけれども、それでも車線を潰すことで車の需要を減らすという手法もあるようで、そういう考え方もできるのかなというふうに考えています。

済みません、あんまり専門ではないので詳しくお話しできないんですけれども。

【高岩勝人建設企業常任委員会委員】

この2次交通の問題というのは、今、金沢市も本当に最重要課題の一つかなというふうに思っています、人口はやや今後減少していくけれども、交流人口は拡大していくというこのアンバランスな状況を今後金沢市は迎えますので、人口をどこに絞ったまちづくりをするかということがすごく重要になってきて、あわせて移動をどうするがやという。今のLRTを入れることによって車をとめるけれども、多分まちに入る人間というのはより多く入れることができるんですよ。それも規則的に。ということは、ストレスなくまちに入れるというメリットは大きくある一方で、道路を潰してしまうと、要は地元の人たち、いつも使っている人たちの理解をどう得られるかというような、なってみてよかったら多分よかったよねってなるんですけど、そこまでにたどり着くまでのパブリックコメントとかここに多分苦勞すると思うんですけど、今後、そこを今、議会としてもしっかりと行政と踏まえて、そんなに遠くない将来にこれ決めんならんがんないかなと思っていて、行政のほうも今、交通実験をしている最中なので、先生の今のLRTがいいんじゃないかというお話ですけど、市民に理解を得られますかね。その辺の何かこういう切り口で市民に訴えたらどうですかみたいなアドバイスをいただけたらと思うんですけど。

【佐野浩祥金沢星稜大学経済学部准教授】

やはりどうしても今の現状で市民にLRTどうですかというふうに聞いても、やっぱり車は手離せない。車のある生活がもう既にあるので、なかなか難しいのかなというふうに考えていますけど、ちょっと市民の意識を誘導するじゃないですけれども、やっぱり時間をかけて少しずつ車のない生活というのは楽しいんだということを理解してもらうような取り組みが大事なかなと思っていて、やっぱりもうちょっと私なんかは、例えば京都の四条通り、あの車線を4車線か

ら2車線にしていますけれども、あれもやっぱり10年かかっているんですよ。やっぱり時間がかかるということを前提に考えないといけないというのと、もっと社会実験なんかを積極的にやったほうがいいのかなど。もうちょっと例えば百万石まつりのときみたいな、都心軸でも車をとめて市民の人が歩いて都心軸を楽しめるようなことが、そういう社会実験の積み重ねみたいなどころは大事なのかなというふうに思います。

今の都心軸を歩いていると、やっぱり車も近いですし危ないなど思うこともあるので、そういう実験をたくさんやってみるといのがまずは入り口かなというふうに考えています。

【小間井隆幸片町商店街振興組合副理事長】

都市交通に関しては、本当に金沢市は不幸にも花電車を見送ってからもう何十年もたっているんですけども、一事業者がまちの交通を全部仕切っているわけで、結局、我々としたらあの時間も不正確でやたらコストのかかる公共交通を使わざるを得ない。

大事なものはLRTもそうなんですけど、景観上とかいろいろそれはすてきな電車が走ったらまちの景観はよくなるなどというそういう単純な思いからと、もう一つは今言った電車というかLRTのシステムによって大事な時間がある程度ちゃんと自分のわかった時間でコントロールできる。今、バス停でバス待っていてもこの時間に来るやつがまだ来ないぞというのは皆さん嫌になるほど経験していると思うんですよ。

それと残念ながら、平成に入ってから金沢の中心街だけでも金沢大学、尾山高校、金城女子短期大学、大学という大学が全部外へ出てしまっ、おまけに県庁までいなくなって、年間300万人ぐらいがまちの中からもういなくなったんですね。現実として。それが21世紀美術館ができて、新幹線が来てくれたおかげで、何となく今とんとんぐらいに戻ってきているように見えますけれども、現実には日々いる人がなくなった300万人をどうするのか。それをやっぱりまちのにぎわいにするときには、今言った周辺のところからまちの中に来てくれる人たちの2次交通のコストと今言った時間というものをもっと大事にしてあげられるような交通政策というのを考えていかないとなかなか難しい。

角間の学生だってもっと片町に出て遊びたいと思っても、現実に380円か何かかかって往復で七百何十円かかるわけですから、だったら片町商店街とか中心街で学生証を出してくれた人にはもう100円でいいようにしようとか、うちの会社といいますかまちづくり会社、TMOという会社でまちバスというバスを運行することができました。あれは土日、祝日だけですけれども100円なんですよ。それがもう30万人を超えて40万人に年間利用者がふえようとしています。

ですから、コストの問題も大事だと思いますし、LRTというものがもし今後必要だとしたら、皆さんの時間を正確に、コストとともに与えますよというそう

いう投げ方もいいんじゃないのかなというふうには思います。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ちょっと脱線しているんですけども、曾我先生もさっきからにこにこしながらお聞きになっているので。

先ほど特養をつくったらそこへバスで行くということをおっしゃって、その辺については。

【曾我千春金沢星稜大学経済学部教授】

ちょっとここでの話題でいいのかどうかというのはわかりませんが、やはり今、高齢者の方の事故というのが非常に社会問題になっているようなこともあるし、あとできればエネルギーだとか環境だとかということをお考えたときに、車がやはり少ないほうが国としても地域としてもいいんじゃないのかなというふうにお考えしているので、そこで私、佐野先生のお話を聞くまで、私も路面電車が好きなのでいいなというふうにお思っていたんですけども、まさか金沢でこれが導入されるということはおちょっとお考えもつかなかったということがありました。

そこで、やはりまちなかに特養をつくって、さっきも出ていきましたけれどもなかなかバスがおくられてきたりということもあるということであれば、まちなかに特養をつくって路面電車が走れば、家族の方たちもいろんな地域からその特養を目指しておじいちゃん、おばあちゃんに会いにこれるということができるのではないのかなというふうにお思います。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

小林先生も何か。

【小林史彦金沢大学理工研究域環境デザイン学類講師】

実は私、今、港町の犬伏に住んでいるんですけど、そこから角間までバスで通っています。ずっと車で行っていたんですけど、40分ぐらいかかっただけで居眠りになっちゃって危ないので、五、六年前ぐらいかな、すばっとやめまして、車も実はこの春からほとんど車庫にとまったままで、この半年で多分10キロぐらいしか走ってない。もう手離したほうがいいかなとお思っているぐらいなんですけど、乗ってみると意外とそんなにおくれないというか、意外に大丈夫なんです。なれてくると、定期券があるのでということも大きいんですけど、思ったほどひどくないというか、特に都心部はほとんど気にしなくても次から次へと来ますから、意外に特に都心に住んでいる方はあれかもしれないんですけど、遠くから通勤されている方なんかはそういう先入観があって、一回乗ってみるというのも大事だと思うんです。乗ったときに楽しいかどうかということがすごくあって、LRTは楽しいけどバスはあんまり楽しくないとかかもしれないんですけど、やっぱり使ってみるとすごく大事だなとお思っています。

あと自転車ももっと使ったほうが良いとお思っていて、こんな天気ではどうかという話は必ず出ると思うんですけど、例えばコペンハーゲン、デンマークの都市

は本を読むと自転車での通勤率が37%あるそうなんですよね。そんなのを聞くと金沢でもいけるんじゃないかなと思ったりもします。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

せっかくですので、松下さん。耐震は関係ないですが。

【松下忠松下建築構造設計代表】

耐震の話ですか。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

いえ、今のことについてもしあれば。

【松下忠松下建築構造設計代表】

そうですね。曾我先生のお話で、私も別段、この構造以外にいろいろまちのことを考えると、結局、やっぱりまちのところに年寄りの方が来ていただいて、やっぱり今の特養みたいのをつくられて、若い人は郊外に住んで、会社とか事業とか結構郊外にありますので、若い人は郊外で余暇があれば畑仕事をしたり、若い人の労働力で農産物をつくったり、郊外で仕事をして、今言ったまちに特養をつくって、おじいちゃん、おばあちゃんに会いに行くと。そこにもカフェがあったり店舗があったり商品とかがあれば、おばあちゃんとか会いに行ったついでに物を買って、また郊外に帰るといようなことで少しまちづくりが、そういう面で活性化するんじゃないかなというふうに、構造とは全然関係ないですが日ごろ思っていることです。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

ありがとうございます。

・市民とのテーマに関する意見交換

【麦田徹建設企業常任委員長】

済みません。時間が来たんですが、お一方だけでもこのテーマについてあれば。今、お手を挙げていらっしゃるので、お一方に限りでお願いします。

【参加者】

上空通路のことで、私もう本当に市議会というのにすごい不信感抱いたんですけど、それでそのことについて先ほど、私、これで来たので……。

【麦田徹建設企業常任委員会委員長】

テーマの……。

【参加者】

テーマと別に。でも、これすごく重要なことだと思うんですね。市会議員の方たちの美意識のなさ、それから意識、それから市税に対する使い方とかそういうことも含めて考えると、今のいろんな諸所の問題だって使い方とかということも必ず答えが出てくると思うのに、まだ自分たちありきで事をなしていたことに対して、ちょっとそのことが一番のテーマとしてあるべきだと思って私きょう来た

んですけど、何か先へ先へという話で、でも歩きもしない、バスにも乗らない、美しいところも知らない市議会の人たちが、さきの金沢を考えたって仕方ないんじゃないかなって思いました。

以上です。

【麦田徹建設企業常任委員長】

時間になりましたので、済みません。

【参加者】

何でもっと市民の声聞かんがや。ちょっとおかしいよ。意見交換でないわ。

【麦田徹建設企業常任委員長】

テーマについての御意見ありますか。

【参加者】

はい。

【麦田徹建設企業常任委員長】

テーマについてですか。

【参加者】

L R T。

【麦田徹建設企業常任委員長】

じゃ、L R Tで。

【参加者】

私は、50年前に電車が脱線して高校生が死んだというときの高校生でした。私たちと同じ世代の人たちが死んだことがきっかけで、固定的な電車が廃止された。これは非常に画期的なことでした。

電車というのは何が問題かということ、雪の道で電車が走っている、線路の上を、皆さん、自転車で走ったことありますか。滑ってひっくり返って大変なことになるんですよ。それから、自動二輪なんかは要するに危ないんですよ。そういう危険性を含んだものを導入されるというのはまずどういうことなのかということと、それから正確に人を運べるというけれども、例えば私は味噌蔵の近くに住んでいましたが、味噌蔵の停留所から例えば小立野なり寺町に行くときにそんなに正確でなかったですよ。時間はもうまちまちで、いつ来るかわからんというような電車配置でしたよ。そんなものがどうしてL R Tが必要なんですか。それも1,000億近くお金が要るんでしょう。4,200億円の我々借金を抱えている金沢市ですけど、さらにそういう借金を抱えて、さらにもし赤字になったら税金は誰が払うんですか。そんなものを導入するって私はおかしいんじゃないかと、そういう考え方をしている市議会はおかしいんじゃないかというふうに考えます。

先生方もぜひ再考をお願いいたします。

【麦田徹建設企業常任委員長】

貴重な御意見として承りたいと思います。

時間になりましたので、意見交換はここで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

なお、受付の際にお渡しした封筒の中にアンケートが入っておりますので、御記入の上、お帰りの際に受付でお渡しください。

また、次回の意見交換会ですが、12月の定例会が12月5日から12月19日にかけて開催することとなっておりますので、12月定例会以降に開催を予定しております。詳細が決まりましたら、市議会ホームページでお知らせいたしますので、お越しいただければ幸いです。

6. 閉 会

【上田雅大建設企業常任副委員長】

それでは、閉会に当たりまして、金沢市議会、高岩勝人副議長からお礼の御挨拶を申し上げます。

【高岩勝人副議長】

本日は、先生方、本当に我々の意見交換会によるこそお越しいただきまして、本当にありがとうございました。貴重な意見も数々いただきました。

小林先生からはパブリックライフ、なるほどなというふうに思いましたし、佐野先生のバームクーヘン都市も、ああそうやなというふうに。曾我先生はまちなかに特養をと、なかなか特養は郊外に行ってしまいましたので、真ん中にあるおっしゃるとおり子どもたちが会いに来ますので、そういうまちなかの活性化もあるやなというふうに気づかせてもらいました。松下さんは耐震化の必要性、きょうも大きな地震がありましたので、このことにつきましてもしっかりと対応していかなければなりませんし、吉村理事長の市民の台所という機能と観光施設をどういうふうによくしていくか。これは本当に今大きな問題になりつつあるのかなというふうに思っておりまして、市議会としましてもしっかりとその辺は見ていかなければならないというふうに思っております。小間井副理事長からは、ビルは更新していかなきゃならないけれども、それだけではなくてしっかりとにぎわい創出の施策も必要なんだよというようなところも、我々も単なる片町を新しいビルにすればいいというふうに思っているわけではありませんで、しっかりとそこに魂を入れていかなきゃならないなというふうに思っておりますから、そういったことをこれからもまた専門的な皆さんの御意見を聞きながら、しっかりと行政に提言をしていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先生方のこれからの御活躍を心から御祈念申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。（拍手）

【上田雅大建設企業常任副委員長】

それでは、以上をもちまして意見交換会を終了させていただきます。
本日はお忙しい中お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます
た。

以 上